

○日時 令和7年8月22日(金)
11:20~11:50
○場所 北九州市本庁舎4階 記者会見室

認定NPO法人 抱樸との 連携協定締結式

次 第

1. 出席者紹介

2. 連携協定内容の説明

(市長 武内 和久)

3. 認定 NPO 法人 抱樸 説明

(理事長 ^{おくだ} 奥田 ^{ともし} 知志)

4. 協定書署名・披露

5. 質疑応答

6. 写真撮影

配布資料

- ・ 次第
- ・ 配席表
- ・ 協定内容説明資料（北九州市説明資料）
- ・ 認定NPO法人抱樸説明資料
- ・ 令和7年8月20日付 プレスリリース資料

【問合せ】

政策局 政策課

課長：高岡、係長：藪 電話：093-582-2302

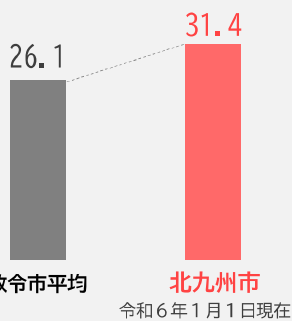


連携協定の締結について

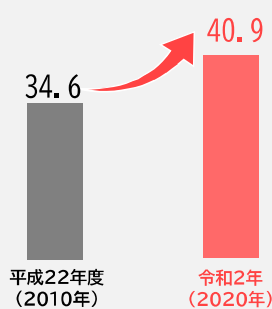
令和7年8月22日

北九州市の現状

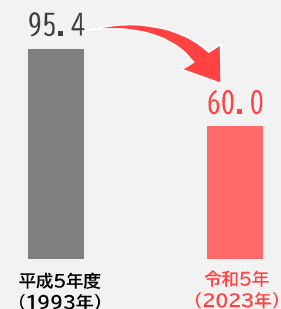
政令市で最も高い 高齢化率



単身世帯の割合が増加 4割が単身世帯



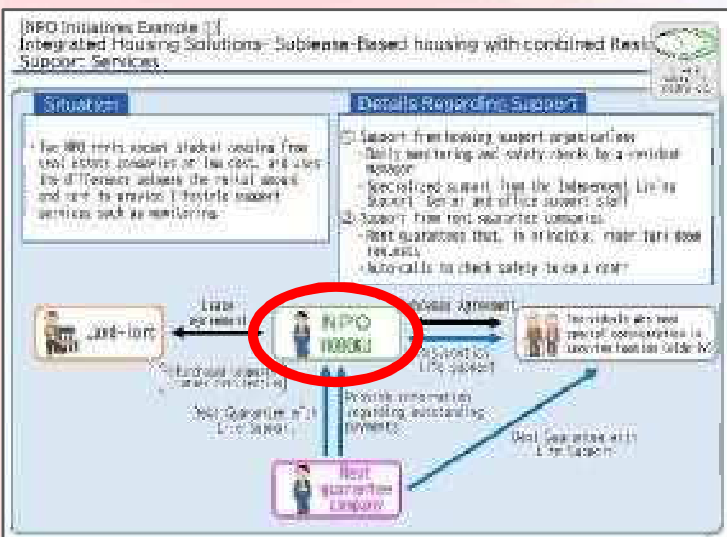
コミュニティの 持続可能性が課題に 例：自治会加入率の低下



全国・世界の都市に先駆けて課題に直面



認定NPO法人抱樸による 先進的な取組は世界から反響



(出典)「OECD Urban Days」北九州市発表資料より抜粋

連携協定締結により目指す姿



ほうぼく-抱樸



北九州市
CITY OF KITAKYUSHU



長年にわたる伴走支援で培われた
・地域で困りごとを解決する
・誰にでもやさしいまちをつくる
ノウハウ・ネットワークの提供

連携協定

・活動しやすく・効果の増大に向けた
様々な制度の活用・広報等
・提供を受けたノウハウを活用し
施策をアップグレード

Concept

もっと“つながる” もっと“支えあう” まちへ

- ✓お困りごとを一人で抱え込んでいる方
- ✓一人住まいに不安のあるご高齢の方
- ✓自分の居場所が分からない方 ...etc.



“つながり” “支えあい” を生かして
一人一人のニーズに
もっと応えていくまち

連携事項①



一人一人の困りごとに寄り添い“安心”をつくる

👂 先進的な機能を備えた 安心できる住まいの確保など
に向けて連携します

《主な連携》

高齢化率政令市トップ、一人住まいのご高齢の方が増えているからこそ…

ほうぼく-抱撲

居住支援法人として培った
・住まいのお困りに対する相談対応
・見守り等の活動 に関する
ノウハウ・ネットワークの供給



北九州市

居住サポート住宅の
供給促進に向けた取組
(制度周知や認定事業者の募集等)
「居住サポート住宅モデル」を
全国・世界に普及・啓発



一人住まいのご高齢の方
などが抱えている
不安の軽減・解消
安心して住み続けられる
住まいの確保

※居住支援法人：住宅セーフティネット法に基づき、地域の居住支援の担い手として活動する県指定の法人（北九州市内を活動エリアとする法人は14法人）
※居住サポート住宅：居住支援法人等が高齢者等を対象に、ICTによる安否確認、見守り、福祉サービスへの繋ぎなど先進的な取組を行う住宅
(住宅セーフティネット法改正に伴いR7.10から居住サポート住宅の認定制度が開始)

連携事項②



子どもをはじめ誰でも過ごせる“居場所”をつくる

👂 「希望のまち」の始動を見据え、
子どもをはじめ多世代が安心して日常的に過ごせる
“居場所”づくりに向けて連携します

《主な連携》

自分の居場所がない・分からないという方に向けて…

ほうぼく-抱撲

子どもをはじめ多世代の
“居場所”となる
「希望のまち」
拠点施設の整備



北九州市

「希望のまち」始動に向けて
施設の整備を含め
施設を活用した居場所づくり
をしっかり後押し



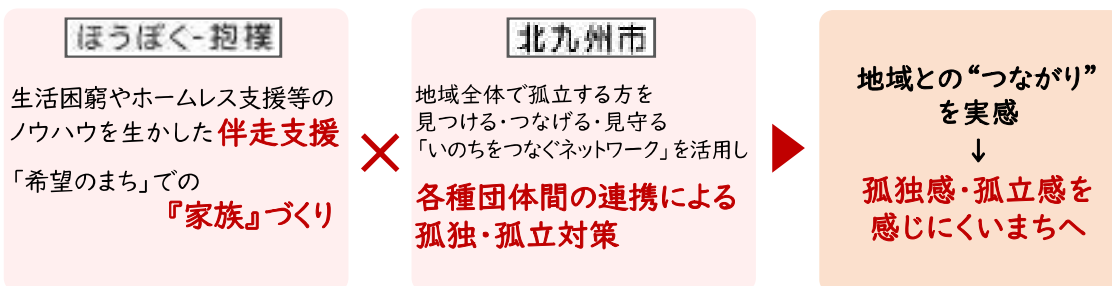
「希望のまち」を通じた
誰でも気軽に立ち寄れ
安心して過ごせる
“居場所”の創出

住み慣れた地域で“つながり”をつくる

☞ 孤立する方の支援に向けて
“つながり”による支援体制づくりに連携します

《主な連携》

単身世帯の増加、コミュニティの希薄化が進む中、お困りごとを一人で抱え込む方に向けて…



認定NPO法人 抱樸 と 北九州市は、
今回の連携協定締結を機に さらに連携を強めていくことで、
北九州市が世界に先駆けて直面する課題の解決に挑戦していきます

もっと“つながる” もっと“支えあう”まち を実現し、
もっと“住み続けたい” “住みたい”と思ってもらえるまちへ



ほうぼく-抱樸



北九州市
CITY OF KITAKYUSHU

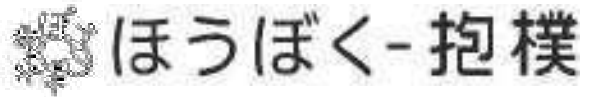


Kitakyushu
Action!
暮らし・未来・北九州市

もっと “つながる” もっと “支えあう” まちへ



×



連携協定の締結について

2025年8月22日

NPO法人 抱樸（ほうぼく）のご紹介

生きづらさの本質

経済的困窮（ハウスレス）と社会的孤立（ホームレス）

👉 「ひとりにしない」という支援



2025年3月末日現在

連携事項① 一人一人の困りごとに寄り添い“安心”をつくる

☞断らない相談

縦割りを無くす・分野横断型

☞名前のある個人に対するオーダーメイド支援計画

☞生活支援（家族機能）付きの「居住支援」
身内のいない人の増加



すべての人が安心して生活が出来る社会を目指して、見守りの仕組みと住まいの確保の仕組みに挑戦しています

3

連携事項② 子どもをはじめ誰でも過ごせる“居場所”をつくる

希望のまちコンセプト

「わたしがいる あなたがいる なんとかなる」

全世代型居場所☞日常性・弱目的

まちが子どもを育てる

就職氷河期向けの仕事づくり



☆2026年夏以降 開所予定

希望のまちプロジェクトは ①助けてと言えるまち ②まちを大きな家族に ③まちがこどもを育てる ことを目指します

4

連携事項③ 住み慣れた地域で“つながり”をつくる

つながり続ける「伴走型支援」

☞ 出会いから看取りまで

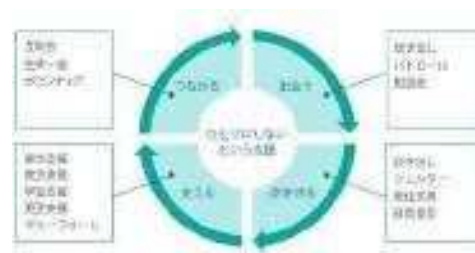
身寄り創る

☞ なんちゃって家族

官民協働・参加型地域創生

☞ 課題先進地域「北九州市」

☞ 次期地域モデル



地域共生社会を目指し、重層的支援体制整備事業（制度）や、地域の支え合いの仕組みとしての互助会（非制度）を広げます



令和7年8月20日
北九州市政策局

報道機関各位



連携協定を締結！

～もっと“つながる” もっと“支えあう”まち を目指します～

北九州市と認定NPO法人抱樸は、これまでもお困りごとを抱える方々への支援をはじめ、様々な連携を行ってきました。また、同法人を中心として、暴力団本部跡地に地域共生社会の拠点を整備する「希望のまちプロジェクト」が進められているところです。

一方で、北九州市は、政令市トップの高齢化率、単身（高齢）世帯の増加、コミュニティの持続可能性の課題など、取り巻く環境が急速に変化しています。

こうした背景のもと、「もっと“つながる” もっと“支えあう”まち」をコンセプトに、北九州市の課題解決や、誰もが住みよいまちの実現に向け、同法人とこれまでを超えた連携を行うべく、連携協定を締結することとしました。

今後は連携協定に基づき、①お一人住まいのご高齢の方の不安に応える先進的な住宅の普及促進、②「希望のまち」始動に向けた取組、③孤独・孤立対策の強化などの面で、連携を深めながら順次取組を進めていきます。

つきましては、下記のとおり、連携協定締結式を行いますので、ぜひ取材いただきますよう、よろしくお願いいたします。

記

1. 日 時 令和7年8月22日(金) 11時20分～11時50分
2. 場 所 北九州市役所 4階 記者会見室
3. 締結者 認定NPO法人抱樸 理事長 奥田 知志
北九州市長 武内 和久
4. 内 容
 - (1) 出席者紹介
 - (2) 武内市長による連携協定の説明
 - (3) 奥田理事長による説明
 - (4) 協定書署名・披露
 - (5) 質疑応答
 - (6) 写真撮影

【問合せ先】政策局政策課
高岡（課長）、藪（係長） 電話：093-582-2302